

濤釣沼における ヒシクイ、マガン、タンチョウ、オジロワシの調査記録

川崎 里実*・川崎 康弘

日本野鳥の会オホーツク支部, 099-3452 斜里郡小清水町浜小清水 72-25

Observation Records of Bean Goose, White-fronted Goose, Japanese Crane & White-tailed Eagle in Lake Tōtsurutō, Hokkaido

KAWASAKI Satomi* & KAWASAKI Yasuhiro

Okhotsk chapter of Wild Bird Society of Japan, 72-25 hamakoshimizu, Koshimizu, Hokkaido 099-3452, Japan
*✉akagera2@gmail.com

We investigated four rare birds, bean goose, white-fronted goose, Japanese crane and white-tailed eagle at Lake Tōtsurutō, eastern Hokkaido. At the maximum, more than 3,000 birds of bean goose and white-fronted goose were counted in their roost sites in autumn 2017. One pair of Japanese cranes roosted in 2017, and stayed at the lake. Adult white-tailed eagles were observed in the breeding season, and at least, one pair nested. These records show that the lake is an important habitat for the four birds.

はじめに

北海道網走地方は、コムケ湖、サロマ湖、濤沸湖などの海跡湖が多い地域である。この網走地方の淡水の海跡湖の一つである濤釣沼とその周辺の植生は、かつて斜里平野が湿原であったころの名残を留める貴重な環境であるが、これまであまり注目されておらず鳥類に関する報告は少ない。しかしながら、渡りの時期にはヒシクイ（主に亜種ヒシクイ）*Anser fabalis serrirostris*（国指定天然記念物・環境省RDB絶滅危惧II類）、マガン *A. albifrons albifrons*（国指定天然記念物、環境省RDB準絶滅危惧種）などのガン類がねぐらとして利用するほか、春から秋にはタンチョウ *Grus japonensis*（国指定特別天然記念物、環境省RDB絶滅危惧II類、国内希少野生動植物種）がみられ、一年を通じてオジロワシ *Haliaeetus albicilla*（国指定天然記念物、環境省RDB絶滅危惧II類、国内希少野生動植物種）が生息している（宇仁1997；大迫1988；川道ら1997；中川2012；森1979）。

本報告では、筆者らが濤釣沼で観察したこれら4

種の稀少鳥類について記録する。

調査地

濤釣沼は、濤沸湖より約10 km 東の斜里郡斜里町大栄（湖心の位置43°55′N, 144°34′E（北海道環境科学研究センター2005））に位置し（図1）、開水面の面積がおよそ36.0 ha、周囲は33.7 haの湿原に取り囲まれている（富士田2017）。

濤釣沼および周辺の湿原と森林は網走国定公園の特別地域に、また沼の北側の海岸砂丘林は国有林の潮害防備保安林に指定されている。

湿原は低層湿原を主体とし、沼の南側が湿性林となっている。低層湿原は、優占種であるヨシをはじめ、ガマ、オモダカ、ミクリなどが（川道ら1997）、湿性林はヤチダモなどが生育している。沼の北側の海岸砂丘林はカシワ、エゾイタヤなどの広葉樹を主体としている。東側にはウエンベツ川が流れ、周辺にはジャガイモ、甜菜、小麦、デントコーンなどの耕作地が広がっている。

図1. 濤釣沼とその周辺の地図。

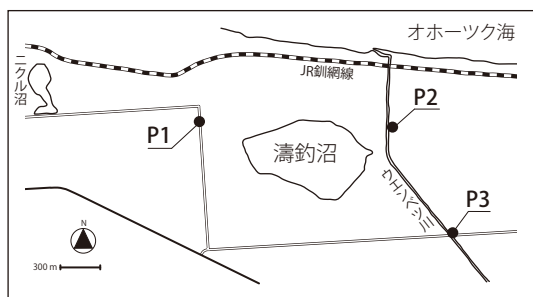
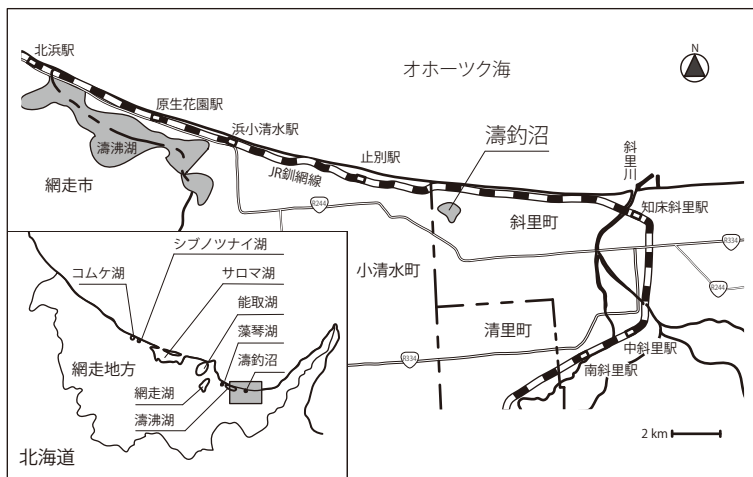


図2. 調査地点位置図。

調査方法

ヒシクイおよびマガン（以下、ガン類）については2017年秋期のほぼ1週間おき（9月29日，10月8日，10月15日，10月21日，10月28日，11月4日，11月13日，11月20日，11月26日）に計9回，ねぐら入り調査をおこなった。調査地点は沼の西側の道路上（P1）と，東側のウエンベツ川右岸（P2）または同河川に架かる大栄一号橋たもと（P3）の3地点とし（図2），P1とP2，またはP1とP3の2地点から同時におこなった。調査は車両内から8-10倍双眼鏡を用いて沼に降りるガン類を目視観察した。日没時刻の10分-1時間前から調査地点で待機し，トランシーバーで連絡を取り合い，できるだけカウント漏れがないように努めた。

ガン類については上記のねぐら入り調査と合わせて筆者らの観察記録を整理した。

タンチョウとオジロワシについては，ガン類のねぐ

ら入り調査時に観察された記録に加え，過去の報告や，筆者らの観察記録を整理した。

結果および考察

1. ガン類

2017年秋の9回のねぐら入り調査のほか，過去におこなった調査結果を表1に示す。

ガン類のねぐら入りは日没数分-30分後くらいから始まるが多かった。目視観察が困難でカウントができなくなるほど暗くなってから飛来することもあったが，鳴き声を聞く限り，このような個体は少数であったと思われた。濤釣沼にねぐら入りするガン類は主にヒシクイ（亜種ヒシクイ）とマガンであるが，両種の識別が難しい場合は区別せずにカウントした。

2017年の調査初日である2017年9月29日はヒシクイ35羽がねぐら入りした。約1週間後の10月8日には845+羽に増え，さらに約1週間後の10月15日にはヒシクイ3,000+羽，マガン95+羽の合計3,095+羽となり，この日のカウント結果が最大羽数となった。その後は3週間連続で2,100-2,400羽強で推移し，11月13日にはヒシクイ1,270羽，マガン50+羽と半減した。その後は徐々に減少し，11月26日にはヒシクイが約60羽飛来したものの濤釣沼には入らず濤沸湖方向へ通過し，ねぐら入り数は0羽であった。この日は沼の水面の約9割が結氷していた（表1）。

また，筆者らの過去の観察記録では，2001年10月16日にヒシクイ471羽，2003年10月20日にヒシク

イ600+羽のねぐら入りが確認された(表1)。

ヒシクイとマガンについては森(1979)と小荷田(2004)により沼および周辺での確認が報告されているものの、個体数等の詳細な記録はなかった。

筆者らの調査においても調査回数が異なるため単純に比較はできないが、2001年と2017年10月同時期のねぐら入り羽数を比較すると、ここ数十年で濤釣沼を利用するガン類は大幅に増えていると考えられる(表1)。

なお、このようなガン類の増加は濤釣沼に限ったことではなく、近郊の濤沸湖や能取湖など網走地方全体で同様の傾向が見られる(川崎未発表)。1970年代当時の日本国内での渡来数はマガンは3,700羽、ヒシクイは1,500羽程度であったが、現在は渡来数の大幅な増加が見られ、主要越冬地である宮城県伊豆沼周辺では近年10万羽以上のガン類が越冬し、ヒシクイの国内越冬数も13,000羽以上と推定されており(大橋2017)、網走地方に渡来するガン類も越冬地と同様に増加傾向にあると考えられる。

2. タンチョウ

調査結果を表2に示す。2016年11月24日成鳥2羽(鳴き交わし)、2017年3月と秋期のガン類ねぐら入り調査の際に成鳥2羽のねぐら入り行動が複数回観察された。

これまで、濤釣沼では森(1979)が「濤釣沼にはタンチョウも今まで2回立ち寄った報告がある」としているほか、宇仁(1997)は1981年、1987年、1995年の観察記録を、中川(2012)は2004年と2008年に複数回、成鳥または亜成鳥2羽を、2011年には繁殖を確認している。この繁殖記録は斜里町内での初の記録である。

中川(2012)の後に繁殖の報告はないが、筆者らの調査から現在もつがいや定着していると考えられる。営巣地としての利用のほか、水面が結氷するまでは沼を餌場やねぐらとして利用している可能性が高い。

なお、濤釣沼がある斜里町大栄は昔、「鶴の巣」と呼ばれ、斜里平野が開拓される以前からタンチョウの飛来地だったことが伺える(川道ら1997)。

表1. ヒシクイおよびマガンのねぐら入り調査結果。

| 調査日 | 調査開始時間 | 調査終了時間 | ねぐら入り開始時間 | 日没時刻 | ヒシクイ | マガン | ガン類合計 | 天気 | 備考 |
|------------|--------|--------|-----------|--------|--------|------|--------|-------|----------------------------|
| 2001-03-29 | - | - | 18:15 | 17:44 | 200± | 0 | 200± | | |
| 2001-10-16 | - | - | 16:55 | 16:37 | 471 | 4 | 475 | | |
| 2001-10-17 | - | - | (5:28) | (5:38) | 435+ | 0 | 435+ | | ねぐら立ち |
| 2003-10-20 | - | - | 16:40 | 16:31 | 600+ | 0 | 600+ | | |
| 2004-04-09 | - | - | (4:00) | (4:49) | 380+ | 0 | 380+ | | ねぐら立ち |
| 2017-03-17 | 17:23 | 18:15 | 17:23 | 17:30 | 138 | 0 | 138 | | |
| 2017-09-29 | 16:00 | 18:00 | 17:39 | 17:06 | 35 | 0 | 35 | 曇 | |
| 2017-10-08 | 16:46 | - | 16:54 | 16:50 | - | - | 845+ | 曇 | |
| 2017-10-15 | 16:00 | 17:20 | 16:50 | 16:38 | 3,000+ | 95+ | 3,095+ | 晴 | |
| 2017-10-21 | 16:00 | 17:20 | 16:50 | 16:28 | 2,040+ | 140+ | 2,180+ | 晴 | |
| 2017-10-28 | 16:00 | 17:20 | 16:39 | 16:17 | 2,234 | 100+ | 2,334+ | 晴 | |
| 2017-11-04 | 16:00 | 17:00 | 16:25 | 16:08 | 2,320 | 100+ | 2,420+ | 晴 | |
| 2017-11-13 | 15:50 | 16:50 | 16:20 | 15:58 | 1,270 | 50+ | 1,320+ | 晴 | |
| 2017-11-20 | 15:45 | 16:45 | 16:25 | 15:51 | 70+ | 0 | 70+ | 晴 | 水面の半分ほどが結氷、前日に10-15 cmの積雪。 |
| 2017-11-26 | 15:45 | 16:45 | - | 15:47 | 0 | 0 | 0 | 曇時々小雪 | 沼の9割が結氷 |

表2. 濤釣沼で観察されたタンチョウの記録.

| 観察日 | 個体数・年齢 | 出典および備考 |
|------------|------------------|--|
| 1981-09-13 | 成鳥または亜成鳥2羽 | 中川(1982) |
| 1987-08-30 | 成鳥または亜成鳥2羽 | 濤沸湖へ飛翔, 約一ヶ月滞在(宇仁1997) |
| 1995-05-01 | 成鳥または亜成鳥2羽, 幼鳥1羽 | (宇仁1997) |
| 2004-03-22 | 成鳥2羽 | 筆者ら |
| 2004-03-29 | 亜成鳥2羽 | 大栄地区の畑で求愛ダンス, 筆者ら |
| 2004-03-31 | 成鳥2羽 | 氷上, 筆者ら |
| 2008-05-09 | 成鳥2羽 | 筆者ら |
| 2008-05-10 | 成鳥2羽 | 筆者ら |
| 2011-06-25 | 成鳥2羽, 幼鳥1羽 | 斜里町内で初の繁殖記録. この家族群は小清水町止別から斜里町美咲にかけて採餌する姿が確認され, 11月には越冬地へ移動したと思われる. 成鳥のうち1羽は標識付き個体(中川2012) |
| 2016-11-24 | 成鳥2羽 | 鳴き交わしの声を確認, 筆者ら |
| 2017-03-17 | 成鳥2羽 | 17:55, 北方向から飛来, 2羽で水面上を飛翔し沼の南岸に降りる. ねぐら入りと思われる. 筆者ら |
| 2017-11-13 | 成鳥2羽 | 16:15, 直前にウエンベツ川東側で個体を確認. 飛び立ち2羽で水面上を飛翔し沼の西岸に降りる. ねぐら入りと思われる. 筆者ら |
| 2017-11-21 | 成鳥2羽 | 16:03, 北方向から飛来, 2羽で水面上を飛翔し沼の西岸に降りる. ねぐら入りと思われる. 筆者ら |

このほか, 濤釣沼周辺の斜里町大栄地区, 小清水町止別地区, ニクル沼での観察例が複数ある.

表3. 濤釣沼で観察されたオジロワシの記録.

| 観察日 | 年齢と個体数 | 備考 |
|------------|--------------------|--------------------------------|
| 2001-10-16 | 亜成鳥1羽 | |
| 2004-03-19 | 成鳥6羽, 亜成鳥6羽, 幼鳥11羽 | |
| 2004-03-22 | 成鳥4羽, 亜成鳥3羽, 幼鳥8羽 | |
| 2008-05-10 | 成鳥2羽 | |
| 2017-03-25 | 成鳥1羽 | |
| 2017-09-29 | 成鳥1羽 | |
| 2017-10-21 | 成鳥2羽 | |
| 2017-10-28 | 亜成鳥1羽 | |
| 2017-11-13 | 成鳥1羽 | 沼の南西部を飛翔. カモ類を捕食しようとするが途中でやめる. |
| 2017-12-03 | 成鳥2羽 | つかいと思われる2羽が広葉樹の樹冠に並んでとまっていた. |

3. オジロワシ

調査結果を表3に示す. 2001年から2017年にかけて, 1羽-複数羽の成鳥, 亜成鳥, 幼鳥が確認されたほか, 沼でカモ類を捕食しようとする行動や雌雄で並んでとまる行動も観察された.

大迫(1988)は1988年7月の調査結果から繁殖の可能性について指摘した. 筆者らの調査でも繁殖期に成鳥を複数回確認しており, 大迫の指摘を支持す

る結果となった. なお, 筆者らの今回の調査では確認できなかったが, 濤釣沼周辺では少なくとも1つがいが継続して営巣している(白木彩子氏私信).

このように, 繁殖地として重要であるほか, 3月の結氷期から解氷期にかけての渡りの時期には亜成鳥も数多く確認されるため, このような渡り個体の餌場としても重要な環境であると考えられる.

おわりに

以上の結果から、濤釣沼は網走地方の周辺の湖沼と比べると面積は小さいが、稀少な鳥類の重要な生息地となっていることが明らかになった。現在は網走国定公園内ではあるが、鳥獣保護区には指定されていない。今後はより一層の環境保全措置が求められる。

謝辞

本報告を発表するにあたり、文献を提供して下さった知床博物館の内田暁友氏と北海道環境科学研究センターの川上英敏氏、貴重なご助言と私信をくださった東京農業大学の白木彩子氏、遅筆な筆者の背中を辛抱強く押し続けてくださった帯広畜産大学名誉教授の藤巻裕蔵先生に深く感謝申し上げます。

引用文献

宇仁義和, 1997. オホーツク海沿岸地域のタンチョウ飛来記録. 知床博物館研究報告 18: 15-18.
大迫義人, 1988. 北海道東部地方斜里の防潮保

安林とその周辺における夏期の鳥類相. *Strix* 7: 231-237.

大橋弘一, 2017. マガン・ヒシクイ・コクガン: 天然記念物指定の経緯と現状. *fauna* 57: 34-39.

川道美枝子・合地信生・松田功, 1997. 斜里海岸砂丘の自然. 郷土学習シリーズ 19. 知床博物館協力会, 斜里.

小荷田行男, 2004. オホーツク海岸(止別-斜里)における砂浜, 海岸草原, 海岸林の植生と鳥類相. 知床博物館研究報告 25: 21-30.

中川元, 2012. タンチョウが斜里町内で初めて繁殖. *タンネウシ* 242: 2.

富士田裕子, 2017. 湿原の植物誌: 北海道のフィールドから. 242 pp. 東京大学出版会, 東京.

北海道環境科学研究センター, 2005. 北海道の湖沼(改訂版). 314 pp. 北海道環境科学研究センター環境科学部地域環境科, 札幌

森信也, 1979. 斜里町館内の鳥類相について. 知床博物館研究報告 1: 1-10.

濤釣沼におけるヒシクイ, マガン, タンチョウ, オジロワシの観察記録: 川崎里実・川崎康弘

濤釣沼に生息するヒシクイ, マガン, タンチョウ, オジロワシの4種について調査をおこない, この沼が稀少な鳥類の重要な生息地となっていることを明らかにした。ヒシクイとマガンは2017年の秋にねぐら入り調査をおこない, 両種合わせて最大3000羽強を確認した。タンチョウは2017年につがいのねぐら入り行動を確認しており, 継続して沼とその周辺を利用している。オジロワシは繁殖期に成鳥を確認しており, 少なくとも1つがいが継続して営巣している。